

2005年度分野別一般研究組織 研究成果の概要

中世英語による『創世記』写本テキストの校訂・公刊

Editing of a Middle English Translation of the Book of Genesis
(MS G.31, St John's College, Cambridge)

田口 まゆみ
(Mayumi TAGUCHI)

Cambridge大学、St John's College所蔵MS G.31に収録されている*History of the Patriarchs*は、ペトルス・コメスタによる聖書の注釈書*Historia Scholastica*の創世記対応部分の英訳に、原典にはない聖句の英訳を補ったものである。組み込まれた聖書は、パラフレーズされた箇所を含めて創世記の大部分をカバーしている。写本の製作時期は15世紀末、翻訳時期は15世紀後半以降と考えられる。聖書の英語訳が厳しく禁じられていた時代の稀有な作品であることから、ドイツ、ハイデルベルグ大学出版による*Middle English Texts* (MET) シリーズからの刊行約束を得て、2004年にスタートしたプロジェクトである。

【研究の目的】

平成17年度は、校訂の作業を進めるとともに、エディションに付随するイントロダクション(解説)執筆のための準備を進めることを目的とした。イントロダクションはMETのエディター(3名)の審査を受けなくてはならない。

【平成17年度の成果】

校訂の作業を終え、注釈の執筆を進めながら、写植原本提出のためのレイアウトの検討も始めた。イントロダクション準備の一環としては、Wyclif聖書との関連に焦点を絞った論文を発表した。

- ・ “*The Historie of the Patriarchs* (St John's College, Cambridge, MS G.31): A Middle English Translation of Genesis”, Mayumi Taguchi, in *Language and Beyond: a festschrift for Hiroshi Yonekura on the occasion of his 65th Birthday* (20007), pp.429-46. (論文提出は17年度12月でしたが、出版が遅れました)

[概要]14世紀末Wyclif派の人々が、彼らの主張の1つである聖書中心主義にもとづき英語で初めての聖書全巻の翻訳を出版した。教会は、Wyclif派の宗教改革運動とその勢力の拡大に対抗するため、聖書の翻訳、その使用を法(Oxford Constitutions, 1409)によって弾圧した。その結果、聖書の翻訳はおろか英語による聖句の引用も厳しく禁止され、以後聖書の英語訳はTyndaleの16世紀まで行われなかったと考えられてきた。そのような状況下で、仏語訳*Bible Historiale*の方法をまねて正統の注釈書(*Historia Scholastica*)を隠れ蓑とし、創世記のほぼ全容がこなれた英語で出版されたことは、歴史的なできごとであると言える。本論では、さらに、本文献中の聖書英語訳とWyclif聖書とを詳しく比較し、まったく異なるものであることを証明している。